

京都市子ども安全ネットワークニュース

Vol.21 平成21年8月発行：京都市子ども安全会議事務局

教育委員会体育健康教育室 213-5472 http://www.city.kyoto.lg.jp/kyoiku/soshiki/29-4-0-0-0_2.html

～京都市スクールガード・リーダー連絡協議会開催～ (8月19日 京都市総合教育センター)



「スクールガード・リーダー」は、京都市が委嘱している警察官OBの方々です。防犯についての専門的な知識と豊富な経験を活かし、全小学校区で活動しています。

日常的には、学校と連携して校区の巡回や見守り活動への助言等に取り組んでいます。

また、定期的に協議会を開催し、地域ぐるみの子ども見守り活動等がより効果的に展開されるよう、情報共有や意見交換等を行っています。

今回の連絡協議会では、まず、声かけ事案の現状について共通理解を図りました。その後、定期巡回指導で感じたことや気づいたことについて意見を交換しました。プロの目線から出された意見等の一例を紹介します。

<意見等の一例>

- 登校時の見守り活動は充実しているが、下校時は人員が減少し、手薄になりがち。
- 地域や保護者へ、より一層積極的に働きかける必要がある。
- 校区により差はあるが、一定の年数が経過し、見守り活動に対する意識の希薄化が懸念される。
- 下校時、家の近くで親の姿を確認すると子どもたちが安心するのがよくわかる。
- 自転車のマナーの悪さが目立つ。交通ルール・マナーは繰り返し教える必要がある。交通安全教育の充実が求められる。
- 活動の助言、指導はいくらでもさせていただくので、気軽に声をかけてほしい。
- PTAの方々が、見守り隊活動に止まらず、学校を支援する様々なボランティアに参画されるようになった。
- 見守り隊の方々の尊い活動に、もっと感謝の気持ちを表すべきである。
- 子どもたちからのあいさつが総じて少ない。そうした指導を学校や家庭ですること大切である。
- AEDの取扱いについて教えてほしい。

子どもを共に育む
京都市民憲章



社会のあらゆる場で実践し、
行動の輪を広げましょう！



AED操作実演

各校区の事例紹介 地域ぐるみの子ども安全活動の取組

音羽小学校区 (山科区)



音羽小学校区は、大津市と接し北部の山裾に琵琶湖疏水が流れ、東には音羽山の主峰である牛尾山がそびえる自然に恵まれた地域です。子どもたちは、音羽・四ノ宮・小金塚の3つの地域から登校しています。特に小金塚方面は、大津市と接していて40分の距離を毎日歩いて登下校しています。

通学路は、道幅も狭く、車の往来も激しいところで、歩道も少なく路側帯の中を2列に並んで登校します。音羽見守り隊の方々には、四ノ宮の交差点、三条通の横断歩道など危険な

場所に毎朝立っていただき、子どもたちの安全を守っていただいています。

子どもたちは、目印の黄色い帽子とジャケット見ると、大きな声で「おはようございます。」と挨拶をしたり、抱きついて甘えたりと見守り隊の方にとってもなついています。また、登下校だけではなく、毎年の「交通安全教室」でも、正しい歩き方や自転車の正しい乗り方を教えていただくなど、様々な場面でお世話になっています。

音羽見守り隊は、現在30名ほどの人数で活動されています。雨の日、雪の日、どんな時も休まず子どもたちの安全を守っていただき大きな事故も無く安全に登下校できていることを深く感謝しています。



向島南小学校区 (伏見区)



向島南小学校区は京都市の南端に位置し、校区の南には巨椋池干拓地の広々とした田畑が広がっています。しかしながら、子どもたちの登校時刻とも重なる通勤時間帯には、国道1号線や24号線の渋滞をさけるため、校区内の道路が抜け道として使われ、狭い道路をたくさんの車が走り抜けていきます。

信号や路側帯のない道路も多く、子どもたちの歩くすぐ側を車が走り、ひやりとする場面も少なくありません。

そのような中で、地域の皆様のご協力によって平成17年度に「向島南みまもり隊」が立ち上がりました。向島南小学校のシンボルとしてデザインされた「ツバメ」と「三十石舟」が描かれた黄色いベストを着て、毎日の子どもたちの登下校の安全を見守っていただいています。また、毎週月曜日にはPTAの方も黄色いベストを着て子どもたちに声かけをしていただいています。

「おはよう」「行ってらっしゃい」と声をかけられてもなかなか返事ができなかった子が、慣れてくると「おはようございます」「行ってきます」と大きな声であいさつができるようになっていきます。

これからも地域・保護者・学校がしっかりと連携して、子どもたちの安全を見守っていきます。

